

広報かわにし

青少年を主体に推進

農事放送で基礎技術を

「川西町農業教育振興協議会」が結成され、町で農業に従事する青少年に基礎技術を習得させることになった。本年度は県と協力してラジオの教育放送を利用するほか、町の特殊性をおりこんだ研修会を実施し、全農家にも呼びかけて、専門的な農業技術を学んでもらおうという計画がすすめられている。

町の農業教育振興計画

この起りは、県の農林部と教育委員会が「新潟県農業教育振興事業」を企画し、川西町からも協力してほしい、という呼びかけがあったことにはじまる。町では農業講座の開設や青年建設班の結成などこれまで農業教育に力をそそいできただけに、農林係や普及所を中心にこの問題を検討した結果、農業教育振興協議会(町・普及所・教委・公民館・農協・青年団・婦人会・定高・中学校)を結成して全面的に協力しようということになったもの。

あすの農業を担う青少年に基礎技術を習得させ、あわせて一般農家にも新しい農業技術を普及し、全般的な技術水準の向上をはかるというところがねらいであり、これが本年度の重点事業として推進されるわけである。

指導は県の技術陣で

このため、県はNHKと協力してラジオによる農業技術の定期放送を行ない、これにもとづく現地集會や、実験、実習を中心としたブロック別の地方研修を実施して内部指導者の育成をはかる。町では県の企画に協力しながら、町での研修会をおりこんだ研修会をひらくことになっている。

指導は県の農業改良組織を中心に行なわれるが、期間は四月から明年三月までの一カ年で指導方法は次のとおりである。

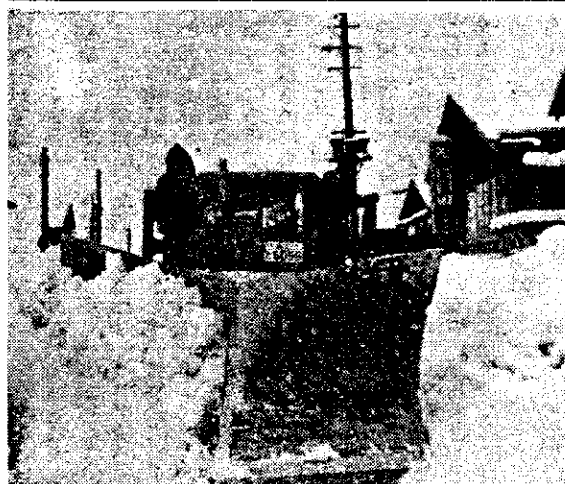
①NHKの第二放送で毎週三回午前六時半から十五分間を定期放送(テキストを用いる)する。

②町の農業センターで毎月男

発行所	川西町	役員	川西町
編集者	中村幸	編集者	金子風
印刷所	白南	印刷所	白南
定価	1部	定価	1部
人口	7,224	人口	7,224
現在	2,437	現在	2,437
男女計	1,463	男女計	1,463
世帯数	2,754	世帯数	2,754

研修生を募集

この計画を全面的に推進するため、町では目下研修生を募集している。研修生は自宅をラジオをききながら前記の指導方法で学ぶわけだが、県から指導効果を確かめられると修了証書が交付される。受講資格は十五才以上の青少年で、年齢や性別はとくに制限しない。



春近いころ

とざされた雪のとびらにいとむ土木の花、たくましくフルトーサーのひびきが春を告げる。冬から解放されるよろこびに、人の心も明かるく窓をひらく。写真は2月27日のスナップ
上町通りにて……押木秀治撮影

したがって農事研究熱の旺盛な人ならアナサでも参加できる。いま出かせぎ中のアンサにはオートトから勤めていたきたい。研修生でなくとも、この放送をきけばりっぱな農業技術が身につく。そこで「一般農家のみなさんもぜひきいてください」とお勧めしたい。

テキストもあつせん

テキストは、農業技術のかんごころをそれぞれの専門家がつまみこんで、ラジオをきいて学べば毎日研修会に出席した以上の効果があるだろう。希望者には一冊六十円であつせん。ほんとは百二十円もする本だが農業教育振興のため町でもとくに半額を負担するとうけ。本年度の農業講座もこのテキストを中心にするため、希望者(研修生とも)は一日も早く農林係(農業センターでもよい)あてに申し込んでいただきたい。

学校統合の

前進を喜ぶ

上野と千手の中学校を統合するという基本方針がきまった。波乱や困難が予想されていただけに難航したが、ともかく平穩なうちに話し合いがすすめられた。首長の命とりとまでいわれるほどむずかしい問題であるのに、何よりも「子どものしあわせ」を考えたからだという。小異を捨てて大同についた親御さんたちを称賛したい。

町の教育行政面からも、財政のもちかたからいっても、両校は早晩統合という運命に迫られていた。建築基準坪数の二分の一が補助金として交付され、残りは起債が認められるという最良のチャンスでもあった。が、それだけの理由で統合に踏み切ることはできなかった。たまたま、「平場だ」「当然だ」と批判するのはいまならぬ。

合併前ならいざ知らず、千手、上野は町の中心部になった。それだけ社会的に重み、将来の見とおしをよくつかんでいたといえる。職業的な分野から洗練された常識が、「子どもたちには十分な教育をさせたい」という親心が変わった点を学ばなければならぬ。

「村ギメ」という鉄則があつて「本校に行きたい」と叫ぶ子どもを無視している部落がある。十分に通学できる環境にありながら、難産の落とし子として建てられた辺地の分校がある。統合の一步前まで来て、住民の無理解から夢と化した小学校もある。このため村

町づくり

長になり手がなかつたほどもめた地区さえもあつた。筆者もあのころの巻きそえを食つたひとり、それは、よその町村でいま見られるような、集団入学拒否とでもいふべきものであつたそんな村にいたたまれなくて、少年期を働きながら学んだ五年間はつらかつた。「これからの子どもたちには、もう決してあんな苦勞をさせたくない」つくづくそう思ひながら、かえりみて「村ギメの鉄則」を悲しむのみである。

毎日ベントウをつくることを容易でないとして、「現状維持」を叫んだ人たちが多かつた。反対部落と親類関係を断つてまで「絶対反対」を唱えた。「自分たちさえよければ」というせつな主義的な現在に甘んじて、少しでも不利になることをきらつた。将来のプラスをタナに上げて、目先の不利だけを強調した。こんな目に見えない部落根性が、きわめて大きな障害となつていたのである。

上野、千手町の統合はきまつたこれをきつかけに、やがては全町へ手が伸びるわけだ。学校統合の試金石として注目されていた両校が、町の前途に明るいきざしを投げかけてくれたことを喜ぶ。が、まかりまちがえはゴハサンという危険性がなくもない。感情や目先の欲から「子どものしあわせ」を犠牲にする親があつてはならぬ。

この欄ではとかく暗い面ばかりとりあげる。それは社会教育の立場で、常に意識の改革をはかりたいからである。今後もお許しをいただきます。

1町議会報告 目標は明年度完成

学校統合の話し合い成立

新年度予算編成を左右する問題として、そのなりのゆきを注目されてきた千手・上野両中学校の統合並びに上野小学校屋体建築について、二月二十七日の議会全員協議会において次のとおり原則的の申し合わせが成立した。

一、千手・上野両中学校の統合は早急にこれを實現させるべく、全力をあげて努力すること。このために、必要な手続は昭和三十五年九月十日までに完了し、新校舎の建築は昭和三十六年中に完成を目標として進む。

二、統合校舎建築の位置は中村町長宅(大字中屋敷五七九番地の一)より北方とし、その選定は千手地区に一任する。

三、上野小学校の屋体は、統合中学校新校舎建築に引きつづき、場合により並行して、上野側の希望する適正規模のものを建築する。なお、その基礎工事の一部を昭和三十五年度中に実施する。

難航した話し合い

ストップした予算審議

懸案の学校統合について一応の話し合いが成立したので、このためにストップしていた予算審議はようやく軌道に乗ることとなり、三月七日の土木委員会を筆頭に、三月いっばい委員会や本会議が連続して行なわれることになるわけである。

統合問題については、昨年のはじめから総文委員会が中心となって検討してきたものであるが、関係者の異常な熱意にもかかわらず、昨年中は必ずしも軌道に乗らず、一時はこのまま見送られるのではないかという悲観的な見方もあった。しかし、年を越えて新年度予算編成の方針を定めるに当たっては、すでにこの問題を除外しては

り約一カ月遅れた二月二十六日にようやく休会中の総文・財政合同協議会が再開される運びとなり、ここで三項目にわたる申し合わせという線に漕ぎつけることができたのであるが、これが翌二十七日の全員協議会に上程され長時間論議されたのち、一部字句を修正して承認されたものである。

このように関係者の非常な努力と苦心によって、一応申し合わせの線まで漕ぎつけたことは、何と云っても画期的なことであるが、この申し合わせの成立については予算編成の時期が切迫しているためという事情もあって、問題を予算後に持ち越した面もあり、内容的には今後の解決に待たなければならぬ問題が残されているので引きつづいて関係者の努力と、住民の理解協力が期待されている。

統合は今が好機

両中学校の統合問題が難航した最大の理由は、上野小学校屋体建築問題との調整にあつた。

上野地区としては、合併前からの悲願であつた屋体建築について見方によっては統合以上の熱望を抱いており、三十五年度にせひ建築してほしいという陳情を繰り返してきたが、このことが逆に統合を促進する結果となつたという見方もある。

また、当初、統合にはきわめて慎重で、学校統合は①まず分校の統合が先決、②次いで雪中派出場を整理統合し、③本校同士の統合は最後にすべきだ、という持論を主張してきた中村町長が、両中学

校の統合に踏み切つたことが、その推進に大きく影響したことはいうまでもない。これは千手・上野両中学校の生徒数増減の状況、学校統合に対する国の補助政策の見通し、町財政の推移、等から、今が両中学校を統合する好機と判断したからであると思われる。

申し合わせ、成立までの経過

●一月十三日(総文・財政合同協議会)両中学校の統合と上野小屋体建築の取り扱ひをめぐって、順序、時期、位置、規模等を検討したが、結論を得られず、当分の間休会として千手・上野両地区の話し合いを進めることとなつた。

(その後、上野地区では十七日二十四日の二回にわたり地区代表者打合せ会、千手では二十五日にPTA、愛育会等の代表者と懇談を行なつたが、千手としては統合に賛成し、早期実現を期することになつた。なお、この懇談会において中村町長が従来の主張を改めて、はじめて統合の意向を明らかにした。)

●一月三十日(第一回千手・上野地区議員懇談会)上野側は、統合とは別に、屋体を三十五年度に建築するよう主張し、千手側と合意に至らなかつたが、統合校舎の位置については、中村町長宅以北が

望ましいと、地区の意向を表明。

●二月八日(第二回千手・上野地区議員懇談会)決裂を避けようという空気が両地区が歩み寄りを見せ、次の基本線を了承した。ただし、上野側では、地区へ帰って協議することを条件として保留した。基本線(三十六年度中に統合を完成する目標で進む)上野小屋体は統合校舎建築に引きつづき三十七年度に建築する。その規模は統合に協力したホウビとして上野側の希望するものを作る。

(その後二月十五日に至つて上野地区から、あくまで三十五年度中に屋体を建築されたいこと二月八日の基本線に承認し難い旨の陳情があつた。)

●二月十七日(第三回千手・上野地区議員懇談会)まず次の統合校舎建築候補地を实地視察した。①高原田(佐藤屋敷地)②霜条南原③木島公舎裏④中村町長宅裏。

次いで千手側に対して町長、議長より十五日における上野側の陳情のようを説明したのち、話し合いに入った。上野側から、屋体建築三十七年度では住民を納得させることが困難であり、既定方針どおり三十五年度に建築ができない限り、統合には応じられないという地元の強硬な意向を伝えた。なお三十五年度に建築を認めれば、規模において多少譲歩する用意がある。建築費に対する一年分ぐらゐの利子を負担してもよいなどの意向を明らかにした。

これに対して千手側は、基本線を変更することに難色を示し、統合校舎建築に引きつづいて屋体建築、という点を一部並行して建築とする要案も出た。また中村町長も三十六年度までに統合する必要を説得し、なお時期的にも予算編成をこれ以上延ばすことはできない旨強調した。

その結果上野側としても、予算は一応町長の提案に任せ、議員としてその審議に任ずる、ということで一応散会した。

●二月二十六日(総文・財政合同協議会再開)小林議長からこれまでの経過を報告のち審議に入った。焦点は上野屋体の基礎工事を三十五年度に実施するかどうかに示はられたが、結局、三十五年度に基礎工事の一部を実施する、という線で、三項目の申し合わせが成立した。

●二月二十七日(全員協議会)前日の申し合わせを中心に検討の結果、一部字句を修正して別項のとおり三項目の申し合わせ事項が承認された。

1米つくり県一をたすねて 天皇陛下からおおことば

皇居に招かれた高橋さん

……昭和三十五年二月十八日、米どころ新潟県を代表して天皇陛下にお会いし(本県ではじめてのこと)親しくおことばをいただいたてあすへの努力を誓った篤農青年がある。昭和三十四年度米多収穫共進会に、わが町から参加して「米つくり県一」の金の射止めた高橋喜久男さん(至島)がその人。楳はこるび日梅のおう皇居に大内山のみどりが一さわはえる日であった。……

人間天皇を身近に

「陛下にお会いしたのは宮内庁前の北車寄せ、お出ましになった陛下はだれよりも先に頭を下げられました。代表(朝日新聞会長)の報告をご熱心にきかれ、いよいよちうなずかれる陛下から御仁徳の偉大さを身近に感じました。」

篤農技術を駆使する人

「米つくりに大きな成果をあげた人たちに会うことができうれしい。国民の生活に重大な関係のある米つくり、これからも努力



喜びの高橋さん一家
左端が喜久男さん

家も部落の惣代や農家組合長を勤めてきた篤農一家で、米つくり技術を駆使する高橋さんは、こどもも仙田農協(星名規矩三組合長)の青年部長として活躍している。

初入賞で県の一位を

高橋さん一家は七人暮らし、山林二百六十アールを所有し、水田六十五アール、畑六十アールを耕作している。肥育牛(二頭)やニワトリ(十羽)を飼育(夏季はボコサマ)しているが、これらの収入と併行して常に良質な堆肥つくりを力を入れ、元肥窒素をはじめ金肥の節約をはかっている。入賞した品種は金南風(きんまぜ)で、反当たり五石二斗二合(町の審査)を記録した。県の審査は三等米以上が対象(クヌズ米は含まない)というキビシイものであったが、十アール当たり七百四十一キロ(四石八斗九升九合)を記録することができた。共進会には三十二年度から参加してきたが、初入賞で同時に県の一位をかちと

ったわけである。このカゲには平素のたゆみない努力と、一家をあけての協力があつたようだ。

耕土培養が先決

高橋さんは成功の原因を、①普及員の指導をまじめにきいてとり入れた。②土つくりに精出して客土をした。③深耕。④改良なわしろによる早植え。⑤良質堆肥の増施。⑥病害虫防除の徹底。⑦明渠を作つて排水を良好にした。からだと言ひ、「金肥を節約し、米質を改善し、反収をあげるために、家畜を導入して耕土培養に努めなければなりません。去年の記録を更新し、これを全耕地に及ぼすこととがことしの希望です。町の金杯制度はこれからも続けてほしいと思います。」と語つてくれた。

米つくり

県一表彰式

昭和三十四年度新潟県米多収穫共進会報賞授与式は、さる二十四

戸籍の窓から二月分

たかさご 御田満に

- ◎新郎 渡貫五十二 新町
- ◎新婦 藤巻 チイ 塩辛から
- ◆うぶ声 御すこやかに
- 丸山 修 高原田 幸二 二男
- 市川 春男 平見 孫一 長男
- 佐藤 松男 伊友 良二 長男
- 中村 公一 坪山 富治 長男
- 星名 洋一 沖立 富一 長男

日午後一時から新潟市の県信連で行なわれ、川西町から参加して個人、グループともに「米つくり県一」を獲得した人に賞状と賞品が贈られた。

庁内めぐり(15)

- めくりもれの巻
- 商工係長・小野塚孫市氏(上町)は、職前の配給から勸業、税務を歴任してきた人。業者のよき相談役として、国民金融公庫の融資(百二十八件、一千七百万円)や地方産業育成資金(三十件、百万)にも知性のひらめきがある。
- 蔵品徳子さん(稲条・社会係)は、いま若い世代を生きる。よく勤めた実社会の一年生にも卒業の日が近づいたわけ。「毎日の仕事にフアイトがわきます」というえがおに前髪のおどけなさがあつた。
- ◎庁内めぐりはこれで終わった。気の弱い編集者が、一年有半にわたつて七十三名をめくりつづけたわけである。とかくきれいなこと、終わつたという気がなくもない。願わくば職員各位、いよいよ公僕であること自覚して住民サービスの上を期せられんことを。

昇天 御めい福を祈る

- 野上 徳蔵 田中 七二
- 小野塚 真 上町 三三
- 五十君ノイ 野口 六三
- 田口与三郎 木落 八二
- 田中 キヨ 小白倉 七一
- 川崎 清作 桐山 七五
- 青木 富平 田戸 五七
- 茂野 ヤス 藤沢 八一
- 高橋 ツマ 高倉 七七

円)のあつせんに奔走してくる宮 昭一氏(山野田)は農林係何事もキチヨウメンだが、ときおりのはずれのことをやらかすのは先生時代(十日町小)のクセだとのこと。皇太子ブームの延長が昭和五十年には高校の入試ソコク、二世にその思いをさせたくないからと見合せているとか。

高橋トシ子さん(中屋敷)は農委の秘蔵っ子。被服科に学んでよそおもむらなく、くちびるには歌をもつやさしきがある。文字もあるがつけ花が趣味で、はたちの青春を人間形成にいそしむ人だ。小林竹野さん(中央町)は出納係。十高時代には県大会(卓球)の首位を争つたが、ハテなことより茶の湯などが好きだという。何でもテキパキとやつてのけるこの人はたいへんな努力家、そのしぐさか愛くるしい感じを与える。

数藤洋子さん(沖立)も出納係しとやかな娘さんだがシンは強いようだ。帳簿の整理にはひたむきさが見られ、ありふれた会話の中にも知性のひらめきがある。

1町の声特集①

建設的な意見が半数

毎月七件(平均)の投書をいただく。内容を、建設調(四六%)攻撃調(二三%)質問調(二%)論文調(一〇%)文芸調(九%)に大別できる。匿名の寄稿者が大半を占め、本紙を「かわにし新聞」と誤解していられるむきもたぶんにあるようだ。広報にふさわしいものをとりあげているが、主な意見を特集とした。

昔かたぎのたわごと

正月がなればを過ぎるころ、毎年公民館の主催でカルタ会があります。せつかく当局から心配していただくのに、こしも出席者が少なくてさみしい気がしました。カルタなどはもう古くさくて、現代の青年たちには興味がないのかもしれない。そんなものよりもスキーや映画、テレビやダンスなどいろいろ身をやつしていることの方がたのしいでしょうね。

しかし、よく考えてみてください。昔からカルタが情操教育の一役をこなってきたというのを、若いみなさんの間に恋愛がお盛んなところを見ると、百人一首が今日まで命脈を保ちつづけてきた力半も、案外このへんにあるような気がいたします。カルタにも良さのあることを忘れないでください。

(編集・大梅田澤)

川西根性とはヒドイ

編集者よ、川西根性とはひどかった。が、お説にはまったく一言もない。そのとおりだからかたがないとしても、いささか強すぎる点なきにしもあらず。ヒンとく

なげきの白鳥

はるばる川西に飛来した白鳥が心ない人に打たれたことを悲しく思います。白鳥はもう来ないかもしれない。みんなでないわってやればよかったのに……。

(四郎兼・愛鳥子)

編集印刷に努力のあと

政郷を去ってから二年、音信も一日と少なくなってきたこのころ、町のように知り得ることは在京者として非常に楽しいことの一つです。第一号以来接する機会がありませんでしたが、先般の第十六号を拜見に及んで、編集、印刷に驚くべき進歩のあることを感じました。ご努力と意気込みのほどがしのほれ、感服いたしました。わたくしはもと一カ月を余すのみとなり、弁護士事務所も大略決定しました。黄金の年に新生の第一歩を踏みだすつもりです。

(東京都北区中十条二ノ七・稲垣方・健同 保・司法修習生)

町づくりに強い指針

今まで知らなかった町の動きを広報という教科書に教えられています。二月十日付の十日町新聞(茶ばなし)を読んで深く感動しました。あの記事で目がしらがあつくなり、編集という仕事の困難さに頭が下がる思いはいはいです。「町づくり」は毎号適切なものをとらえ、民教育にいそしむわた

したちに強い指針を与えてくれます。「ある女教師の手紙」や「ふるさと」をはじめ、いつも心よく読ませてくれることを感謝しています。広報かわにしを原動力として、やがては住みよい町がつくられてゆきましょう。今後の発展を祈念してやみません。

(元町・金子鉄平)

千手局のお願い

勤務の変更で、三月六日から電話交換手が減員されました。できるだけこのいわくをおかけしないつもりですが、夜間十時から翌日七時ころまでは、応答や電報の受け付けが遅くなる場合があるかもしれません。ご了承ください。

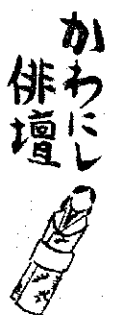
(千手郵便局長・酒井信四郎)

町の掲示板

- 囑託員さま
- 〔千手地区〕◎木島・小林健三
 - ◎神立・教藤奇兵衛◎高野田・高橋英治〔上野地区〕◎田代・中島之男〔仙田地区〕◎中仙田・南雲俊平◎室島・増田忠治◎桐山・桑原国光◎小脇・高木誠一郎◎高倉高橋政◎鷺谷・市川宗平◎藤沢茂野間治◎田戸・高橋國治◎越ヶ

出火のおわび

千手保育園の出火(二月十一日午後七時二十分ごろ)を深くおわびさせていただきます。幸いみなさまからさつそくおかけつけをいただき、被害を最少限にいとめることができました。まことにありがとうございます。心から御礼申し上げます。原因は、炊事用カマドから屋外に通ずる煙道の過熱で、屋根ウラの木部に延焼したものと確認され、ただちに復旧整備いたしました。こんご火気使用につきましては十分な予防検査を行ない、ふたたびかかることのないように留意する所存でございます。



金山柏樹選

元町 鉄平

越ヶ沢 辰治

下原 仁子

三嶺 兵七

岩瀬 来風

小白倉 緑風

野口 寅夫

雪止みて大八海の指呼にあり

放課後の校舎の廊下冷えびえと

春立ちてそまの音する芝峰

学童に道をゆずりて雪の朝

学校統合問題の経過をお伝えするため、筆者におことわりして

ふるさと。ある女教師の手紙。を

休載させていただきます。

◎住民と現場の結びつき。をねら

った斤内めぐりは、本号をもって

一応完結いたします。ご支援あ

りがとうございました。

◎出かせぎのみなさま、

もうあとわずかですね。

元氣でお帰りの日をお心か

らお待ちしています。山

ほどのみやげばなしをき

かせてください。

◎もえたつようなみどりの空、あ

の山のかなたら春がきました。

日焼けした人の顔にもたくましさ

が感じられます。

うす紅に葉はいちちはやくもえいでて さかんとすなり山桜花 (牧水)